

# 千葉県・内房地区訪問 (富津市&木更津市)

2015.9.3~4

## 9月3日

テレビ中継などでも知られるマザー牧場の美しい花々。マザー牧場は動物と植物が両輪となって、その魅力をさらに大きく育てていると、ここ数年特に感じます。今回は、今年8月1日の臨海副都心の夏花見学ツアーで一緒した(株)マザー牧場の花と緑の専門家、宇多健人(うだ・たけと)氏とのご縁をきっかけに、訪問の機会をいただきました。



JR内房線の君津駅下車。マザー牧場の送迎バスに乗ってゲート到着。



牧場内をご案内いただいた株式会社マザー牧場施設管理部施設管理課係長・宇多健人氏。山下ようこは千葉大学園芸学部同窓。宇多氏の花と緑の専門家としての知識、仕事にける情熱、植物に注ぐ愛情。まさにマザー牧場を全国へアピールするけん引役です!!(写真の後ろに赤く見えるのはサルビアの花)



宇多氏の写真の後ろに見えていたサルビアの咲く花の大斜面・東に到着。30万本が色鮮やかに。見ごろは10月中旬まで。



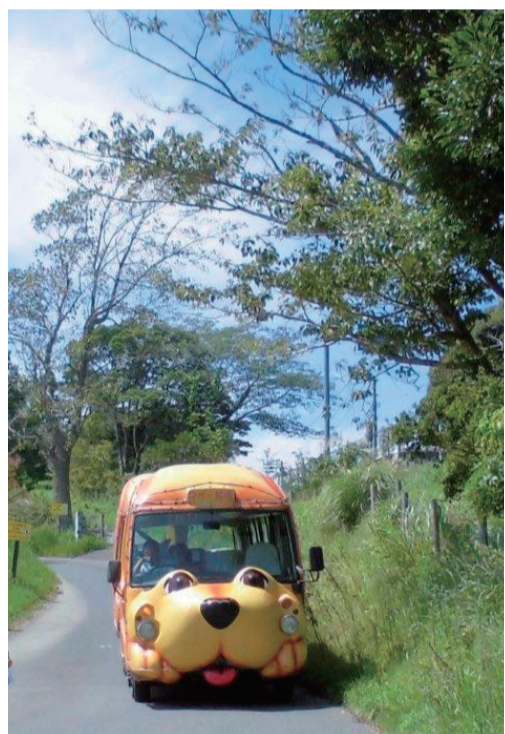
花の谷に咲く3万5千株のペチュニア、その名も桃色吐息。前日までの雨で、この日は少し控えめな咲き方ですが、晴天が続くと、緑の葉が全く見えないほど、一面濃いピンクのじゅうたんを敷き詰めたようになるんですよ。見ごろはサルビアと同じ10月中旬まで。



花の谷に下りる稜線に立つマテバシイの木。雨上がりの澄んだ青空が、マザー牧場のロケーションの魅力を一層輝かせる!!



花の斜面・西には黄花コスモス、300万本。見ごろは9月中旬まで。



牧場内の長距離の移動はわんわんバス(写真左)と遊覧トラクターで。山下ようこも両方に乗りました。また、昼食はマザーファクトリーでソーセージ中心にしたオリジナルメニューを。そして、食後は場所を変えて、牧場のミルクたつぶりのソフトクリームをいただきました。雄大な自然、動物たちとの触れ合い、美しい花々、そしておいしい食べ物。オープンから53年、人々に愛され続けるマザー牧場。その人気の秘密はぶれないコンセプト。心のぬくもり、愛のあるおもてなし、かもしれません。お忙しい中、ご案内いただいた宇多様はじめ、様々なご配慮をいただきました(株)マザー牧場の皆様に感謝申し上げます。



この日の宿泊は君津からひと駅南へ。青堀駅下車、天然温泉青堀温泉のホテル静養園。ホテルの玄関前には大正2年から湧く源泉(写真右)。山下ようこは温泉ソムリエ(温泉ソムリエ協会認定)、この全国でも珍しいヨウ素食塩泉を体験しました。ホテル静養園では、この褐色の湯を「琥珀の湯」と名付け、適応症:神経痛、リウマチ、胃腸病という、その妙泉ぶりをアピールしています。

## 9月4日

2009年、東京都議会史上初、屋内緑化推進を都議会のテーマに登場させた山下ようこ。今城康夫氏は屋内緑化産業の全国団体である(一社)日本インドア・グリーン協会理事長、以前から大変お世話になっている方です。いつも都内でお目にかかっていますが、今回は5年ぶりに木更津の会社(有)イマキ園芸をお訪ねしました。



木更津は温暖で、ほとんどの果物を栽培することができる地域とか。イマキ園芸の敷地に入ると、まず事務所の入り口にマンゴー(左)、建物の横、上を見上げればキウイ(真ん中)。日よけになり、真夏でも冷房を使う日ほとんどないとのこと。右は温室内のパパイヤ。その他、バナナ、ブルーベリー、レモン等も栽培。



屋内緑化の植物たちは温室の中。イマキ園芸のコンセプトは少量多品目。これは温室内で出荷を待つタビトノキ、緑が美しい!



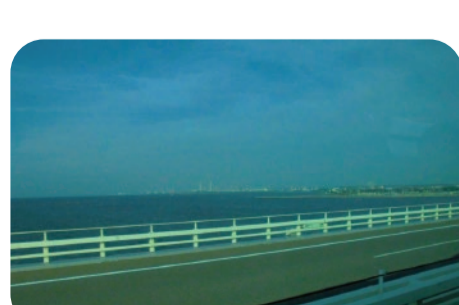
第二農場は育成の場。ケンチャヤシの日よけは敷地内の竹林から切り出した竹の囲い。すべて今城社長の手作りです。これで猛暑の時期も乗り切れました!!



おなじみのストレリチア・レギネ(ゴクラクチョウカ)の温室で、今城康夫(社長)様、淑枝(専務)様ご夫妻。二人三脚で半世紀近くも歩み続けているお二人です。山下ようこのパーティの際は、いつもご夫妻でご出席いただいています。この日も大変お世話になりました。本当にありがとうございます!!



今城淑枝専務と山下ようこ



帰りは木更津駅から高速バスで東京駅へ。バスの車窓から木更津方面を望む。とても心に残る内房の2日間でした。これからの政策にも生かしてまいります。ありがとうございました。